〔問 3〕　年長になっても幼児語が抜けない子供には、その都度、注意しても良いのでしょうか。

〔答〕　一口に言うと、その都度注意してはいけないということになります。その都度注意していたら、口をきかない子供になってしまう恐れがあります。原因がいろいろあると思いますので、それをはっきりさせないと一概に言えません。たとえば聴力が弱い、発声器官に問題がある、母親の言葉に問題があるなどです。ひどい場合には、母親に正しい発音、発声を習得してもらうなど、家庭の協力を得ることも大切だと思います。私の園ではそのような子供を扱う場合には、まず母親を呼びまして、子供と話をしてもらいます。そうすると多くの場合、親に問題のあることがわかります。たとえば、小さい時ひとり遊びを好んでするのであまり話しかけなかったとか。やはり、親の話しかけで言葉を習得していくわけですから、その話しかけが少なかった子は、どうしても言語の発達が遅れてしまいます。正しい発音の言葉を数多く聞いていれば、このような問題は起きないはずです。問題が起きるのは親の方にその原因があるからです。子供の方の原因は聴力か発声器官の問題くらいです。そこで家庭の協力を得てなるべく正しい発音で話しかけを多くし、子供に話をさせる機会を多くもつようにして、直していくのが良いでしょう。注意してもそれだけで直るものではありません。「おとうたん」「じれんしゃ」などと言った時、その都度注意し、直していると、子供はきらって、話さなくなることがあります。耳が悪くなければ、自分の発音と他の人の発音の違いに気づいて、自分から直そうとしますので、時間さえかければ直ります。早く直せばすぐ直ると思ったら間違いで、無理矢理直そうとするのは危険です。大切なのは気長に見守ることでしょう。

〔問 4〕　「河」と「川」との違いを質問されたのですが、辞書には同じ意味に書かれていました。違いはあるのでしょうか。

〔答〕　日本では「かわ」のことを河川と言いますが、河の方は比較的幅の広い長い「かわ」を意味し、大きな河に流れ込む小さな「かわ」を川と書きます。ですから小さな「かわ」を小川と言ったりします。中国では、「河」はもともと黄河のことであり、固有名詞的に使われていて、その他の「かわ」を川と書いたようです。